

令和8年

10/12(月・祝)

午後1時30分開場／午後2時開演
(午後3時30分終演予定)

第23回

秋月の宵 筑前琵琶演奏会

人馬一体の妙技

午年の今年は、「馬」をテーマに、三曲お聴きいただきます。躍動感あふれる馬が、石段を駆け登る様子、琵琶湖を渡る様子、海を渡る様子を琵琶で表現します。子ども琵琶倶楽部の一部の皆さんも一緒に演奏いたします。



曲垣平九郎

演奏 子ども琵琶倶楽部 柘植晴乃(中三)・加藤柳名(中二)

時の將軍徳川家光は菩提寺であります増上寺参詣の帰り道、愛宕山の石段の上に咲いている桜の枝を、馬にて登り取って参れと所望しました。はじめは弓矢の道でなくこのような戯言のために命を捨てるのが惜しまれ、すぐには名乗り出るものではありませんでした。再度家光にせきたてられて、馬術に長じた者が我こそはと試みましたが何れも失敗します。最後に名乗りでた曲垣平九郎は人馬一体の秘術を用いて駆け上がり、見事桜の一枝を主君に捧げました。

湖水渡

演奏 田中旭泉

明智光秀の一族、左馬介光俊は、本能寺の変の後、安土城に留守居としていましたが、光秀が天王山の戦いに敗れたと聞き、その様子を探るために出立します。大津の宿にさしかかり、敵の堀久太郎秀政の大軍と出会った光俊は、ここを最後と奮戦し、敵の浮き足たったところあいを見て、名馬大鹿毛とともに琵琶湖に飛び込み、人馬一体の見事な妙技を見せます。やがて、唐崎の浜に打ちあがり、愛馬を自らの命と共に失うのは忍びなく、十王堂につながる坂本城へと向かいます。やがて、秀吉のもとで大鹿毛は日本一の名馬として大切にされました。

藤戸の渡

演奏 田中旭泉

一の谷から追われた平家一門は、本拠地である屋島に退去し、瀬戸内の島の一つ、児島にも陣を構えています。源範頼を大将とする源氏は、児島の対岸の藤戸に陣をとりましたが、船を手配できないまま日々を送っていました。一方、屋島から兵船を率いた平行盛らが、しきりに挑発を仕掛けてきます。児島に渡る手立てを探っていた源氏の佐々木盛綱は、秘かに一人の浦人から、島に渡る浅瀬の場所を探り出します。はたして、武勇を誇る盛綱は、白波を立てながら馬で海上を渡りきり、行盛ら平家を追い落とすことに成功します。



筑前琵琶演奏家 田中旭泉

TANAKA KYOKUSEN
P R O F E S S I O N A L

- 昭和 45 年 福井にて出生。
昭和 51 年 琵琶の収集家であった祖父の影響を受け、矢吹旭津美師匠に琵琶を習いはじめる。
平成 5 年 矢吹旭津美師匠他界後、山崎旭萃師匠(重要無形文化財保持者)の直弟子となる。
京都にていづ美會を主宰。
琵琶奏者の登竜門となる「第30回琵琶楽コンクール」にて最年少優勝。
文部大臣奨励賞、日本放送協会会長賞など受賞。
平成 6 年 筑前琵琶橋流日本橋会師範免状取得。
平成 7 年 大阪文化祭奨励賞受賞。
平成 8 年 咲くやこの花賞受賞。
平成 11 年 フランス・ドイツ公演(NHKインターナショナル・フランス日本文化会館・ドイツ日本文化会館主催)
平成 13 年 拠点を京都から岐阜に移し、芸道の研鑽を重ねる。
令和 4 年 岐阜県恵那市にて、子どものための琵琶教室「子ども琵琶倶楽部」を始める。
令和 6 年度 岐阜県芸術文化顕彰受賞。
令和 7 年 八百津町合併70周年記念、学術文化功労表彰。

今までに、小川旭典師、箕浦旭声師、山下旭瑞師にも指導を受ける。
NHKラジオ「邦楽のひととき」や古典の日フォーラム等、多数出演。
娘 むい、息子 自然 との親子共演も好評を博している。
岐阜県八百津町在住。



宮盛座 (恵那市三郷町佐々良木)

駐車場

恵那市消防本部 三郷コミュニティ消防センター
恵那市三郷町佐々良木1475-1

*駐車場には限りがありますので、乗り合わせ等でご来場ください。